

## 2023年度 社会福祉法人権の木福社会 事業報告

### 1. 2023年度主要事業の進捗状況

#### ①法人本部機能の強化

組織体制の一部を見直し、財務基盤の強化を進めた。

#### ②働き方改革と魅力ある職場作り

2024年度に一本化される処遇改善加算の取得に向けて準備を進めた。また、最低賃金の引き上げに伴い、時給を改定した。

#### ③人材確保対策

ホームページ、求人サイト等のツールを軸に求人活動を進めた。新たな取組として介護職員初任者研修の自主開催及び特定技能外国人の受入を実現した。

#### ④事業運営

2024年度の介護報酬改定に向けて情報収集を進めた。新たに科学的介護情報システム（LIFE）の加算取得を実現した。

障がい事業の安定した運営のために新規顧客対策を進めた。事業所の移転、グループホーム開設の検討を進めた。

#### ⑤リスクマネジメント

地域の感染状況等を勘案し、新型コロナウイルス対策の一部を緩めながらも感染のまん延防止に努めた。感染症に関するBCPの作成を進めた。

大規模地震へのリスクの備えとして、半田市、半田市社会福祉協議会等との連携を深めた。

#### ⑥地域連携

中野会との法人間連携や地域貢献を進めた。

### 2. 事業所別報告（実績・課題）

#### 1) 特別養護老人ホーム瑞光の里

##### 【稼働状況】

- ・本館平均人数 特養 84.6人 ショート 25.7人であった。（目標：特養 88.5人 ショート 20人）
- ・別館平均人数 特養 38.4人であった。（目標：特養 39.5人）
- ・平均介護度 本館 4.1 別館 4.0であった。（目標：本館 4.1 別館 4.0）

##### 【利用者の生活の質向上】

- ・接遇（臭い対策や言葉遣い）を意識し、サービスの質の向上に努めた。
- ・ZOOMを活用したボランティアとのレクリエーション等を積極的に開催した。

##### 【職員の質向上】

- ・介護福祉士比率向上に努めた。（常勤換算：48.6人 目標：50人）
- ・認知症介護実践リーダーやユニットリーダー資格の取得を進めた。
- ・研修や会議等、実習指導者研修や介護職員等によるたん吸引研修の受講を進めた。
- ・委員会やプリセプター制度等を通じて、新人教育や職員教育の充実を図った。

##### 【地域連携の強化】

- ・ショートステイ緊急受け入れ体制を強化した。（対象問わず、措置入所を含む）
- ・地域からも信頼される施設運営を目指し、介護予防・生活支援協議会等へ参加し、地域ニーズを共有した。

## 2) 特別養護老人ホーム第二瑞光の里

### 【稼働状況】

- ・平均人数 特養 84.8 人 ショート 12.0 人であった。(目標：特養 87.2 人 ショート 10.3 人)
- ・平均介護度 4.0 であった。(目標：4.0)

### 【利用者の生活の質向上】

- ・利用者の生活の質向上の為、施設内での行事を積極的に実施した。
- ・『顧客満足度の向上』を施設テーマに掲げ取り組んだ。

### 【職員の質向上】

- ・介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算 51.8 人 目標：50 人)
- ・実務者研修の受講者を増やし職員の質向上に努めた。

### 【地域連携の強化】

- ・半田地区介護予防生活支援協議会に参加する事で地域に根差した施設運営に努めた。
- ・介護福祉士、社会福祉士実習生の受け入れに積極的に取り組んだ。
- ・半田常滑看護専門学校の実習生を受け入れた。

## 3) 特別養護老人ホーム瑞光の里 緑ヶ丘

### 【稼働状況】

- ・平均人数 特養 92.3 人 ショート 22.0 人であった。(目標：特養 94 人 ショート 22 人)
- ・平均介護度 4.1 であった。(目標：4.1)

### 【利用者の生活の質向上】

- ・利用者の生活の継続を意識したユニットケアの提供を行った。
- ・様々な行事を企画実践し、「緑ヶ丘で良かった」と思っていただけの生活の提供を行った。

### 【職員の質向上】

- ・介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算：44.6 人 目標：49 人)
- ・園芸部を立ち上げ、チームケアで「美しい施設」を実践し続けた。
- ・受賞した接客大賞に恥じない接客や言葉遣いに努めた。
- ・事業所を取り巻く環境や変化を理解し、柔軟に対応できる体制を整えた。
- ・役職者教育、職員教育を実践し、サービスの質の向上に努めた。
- ・介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に進めた。
- ・施設内研修を通じ、職員の顧客意識を向上させ、接客力を高めた。

### 【地域連携の強化】

- ・共生型サービス（障がい短期入所）事業を定着させた。
- ・困難ケースと向き合い、地域から頼られる施設を目指した。
- ・研究協力などを通じて日本福祉大学半田キャンパスとの交流を進め、連携を深めた。
- ・介護福祉士・社会福祉士などの実習生の受け入れ体制を維持し、福祉人材の育成に努めた。
- ・ユニットリーダー研修実地施設として福祉人材の育成に努めた。

## 4) 半田養護老人ホームL i n k

### 【稼働状況】

- ・2023 年度は満床継続した。他養護（4施設）や6市町村、名古屋市 13 区と連携を図り、空床発生時や空床発生が予測された際、計画的に入居させることができた。

#### 【利用者の生活の質向上】

・ 四半期ごとに懇談会を実施し、下記のニーズの聞き取りを行った。

1) 食事の配慮 2) 生活環境の配慮 3) レクリエーションの充実度

9割を超える利用者が日々の生活に満足できていると回答があった。引き続き、利用者の主体的選択に基づいて、良質なサービスを効率的に提供する。

・ 生活の場として必要な認識を持って頂けるよう、1) 居住環境 2) 健康と医療 3) 社会的なつながり 4) 経済的安定（ライフスタイルに合った）にバランス良く考慮し、生活の場を整えた。

#### 【職員の質向上】

・ 記録の共有不足・コミュニケーション不足・委員会の参加率が半数程度であった。

引き続き、利用者の満足度向上やサービスの質の向上のため、1) 利用者のゴールを共有し、多職種連携を図る。 2) フィードバックと改善に繋げる。

・ 役職者や毎月の委員会から発信し、スピーチロックの知識習得に努めた。

接遇の振り返りを行い、やや改善したと回答、一方で向上した実感を覚えることができていないとの回答もあった。引き続き、無自覚に行っているスピーチロックに気づき、利用者の気持ちに寄り添うアプローチを心掛ける。

#### 【地域連携の強化】

・ 3年前から年1度、防災連携（協和区長、副区長、VCの会会長）をきっかけに協和区民展、防災教室、半田市防災訓練等へ参加し、様々な催事に協和区長より連絡を頂けるようになった。

### 5) デイサービスセンター第二瑞光の里

#### 【稼働状況】

・ 平均人数 27.8人であった。（目標 28.0人）

#### 【利用者の生活の質向上】

・ 安全運転に努め利用者乗車中の事故防止に取り組んだ。

・ 同業他社へ見学に出向きデイサービスの質向上に努めた。

・ 防犯や離施設への対応としてボタン錠の設置を進めた。

#### 【職員の質向上】

・ 介護福祉士比率向上に努めた。（常勤換算 10.1人 目標：12人）

#### 【地域連携の強化】

・ サービスの特色などの情報を発信し、目標稼働率の達成に向けてチーム一丸となり取り組んだ。

### 6) 瑞光の里指定居宅介護支援事業所

#### 【稼働状況】

・ 介護給付 131.3人であった。（目標：136人）

・ 予防給付 25.7人であった。（目標：48人）

#### 【利用者の生活の質向上】

・ 各ケースの情報を共有し、担当不在時にも迅速に対応ができる仕組み作りを進めた。

・ 他法人との合同事例検討会を継続的に開催し、サービス提供等の質向上に努めた。

#### 【職員の質向上】

・ 情報伝達会議等を開催し、居宅内のマネジメント力の向上や改善策を話し合い働きやすい環境作りに努めた。

・ 介護支援専門員の年間研修計画等の策定と実施状況を確認した。

・ 法人内の相談員と協力し問題解決に努め、お互いの関係を強化した。

- ・特定事業所加算Ⅱの算定を継続した。

#### 【地域連携の強化】

- ・半田市高齢介護課や半田市包括支援センターとの連携会議、半田市居宅介護支援事業所勉強会などへの参加を通じて地域包括ケアに取り組んだ。
- ・半田市包括支援センター、半田養護老人ホーム Link などからの処遇困難事例を積極的に受け入れた。
- ・介護支援専門員実務研修実習受入体制を継続した。

### 7) 障がい支援事業障がい支援課

事業運営の安定（利用者確保）を最優先課題とし黒字化を目指したが、一部事業で課題が残り、収益改善は出来たが黒字化には至らなかった。

#### 【在宅部門】

- ・居宅平均稼働：月間支援時間 565.3 時間であった。（目標 600 時間）
- ・相談平均稼働：月間請求数 69.8 件であった。（目標 75 件）
- ・居宅介護は登録ヘルパーの確保の方策を検討し、一部確保もできたが、まだ不足している状況となっている。
- ・相談支援は4名体制で運営を行った。新たに社会福祉協議会への出向契約も締結し、さらなら人員体制の増員も図ることができた。

#### 【就労部門】

- ・平均稼働 14.5 人であった。（目標 17 人）
- ・農福連携を進め、利用者賃金向上を仕組化し、新規利用者獲得を進めた。

#### 【通所部門】

- ・放デイ平均稼働：5.5 人であった。（目標 6 人）
- ・生活介護平均稼働：6.2 人であった。（目標 7 人）
- ・重度心身障がい児・者の受入体制を強化し、地域ニーズ解決のため、困難ケースの受入を行った。

#### 【その他】

- ・グループホーム開設の為、生活介護と放課後等デイサービスの移設について検討を進めた。
- ・就労継続支援 A 型、児童発達支援等の新規事業について検討を進めた。
- ・実習生受入を実施したことで、就職につながるケースがあった。

## 3. 研修、委員会活動

### 1) 研修活動

#### ①施設内研修

研修名	研修内容	研修実施月
事故防止対策	・事故防止の考え方 ・KYT	6月・12月
地震防災 事業継続計画	・初動避難教育 ・非常食訓練 ・災害用物品使用訓練 ・安否確認訓練	5月・7月・11月 3月 9月 4月・7月・10月・1月
火災避難訓練	・初期消火と避難誘導訓練（日中夜間想定）	6月・11月
救命訓練	・救急要請と心肺蘇生法訓練	10月
感染対策	・汚物処理、ガウンテクニック訓練	8月・1月

	・感染症及び食中毒予防研修	5月・11月
褥瘡対策	・褥瘡予防の体位変換、除圧訓練	11月
身体拘束廃止	・感染症発生時の予防における身体拘束手順 ・身体拘束防止教育	9月・3月
虐待防止	・高齢者虐待防止、不適切ケア廃止 ・認知症の理解	6月・12月
看取りケア	・看取りへの理解 ・家族支援	9月・3月
介護技術	・福祉用具の使用方法	2月
環境改善・接遇マナー	・接遇マナー、言葉遣い	10月
新入職員研修	・法人理念、就業規則、コンプライアンス等の理解	入職時
プリセプターシップ	・業務理解と技術習得	入職から半年
育成プロジェクト	・リーダーシップ力向上	随時
ケアの質の向上	・個別ケアの理解	毎月
ユニットケア推進	・ユニットリーダー研修受け入れ体制整備	毎月

## ②施設外研修

- ・外部研修を積極的に受け、専門知識や技術の向上を図った。
- ・個人で参加した研修の内容等は施設内研修会で情報を共有した。
- ・委員は専門分野の Web 研修等に積極的に参加し、知識を深めた。
- ・知識や技術向上のため外部から専門講師を招き勉強会を行った。（排泄ケア）
- ・喀痰吸引等研修、ユニットリーダー研修、認知症実践リーダー研修を受講した。

## 2) 委員会活動（毎月1回、状況により随時開催）

### ①リスクマネジメント委員会【事故防止対策委員会】

- ・事故、アクシデント、インシデントデータの分析を行い、介護現場にフィードバックした。
- ・事故発生時の緊急会議の開催および事故分析を現場職員と共に行い、再発防止に取り組んだ。
- ・事故防止に対する啓発活動および知識向上のための訓練を行った。
- ・アクシデント等のデータ集計を効率的に行えるように見直しを行った。
- ・インシデント強化のためのシステム作りと要因分析を行った。
- ・リスクマネジメントに関する知識を増やし、委員会や現場にフィードバックできる体制づくりを行った。
- ・喀痰吸引等の事故報告、リスク予防の取り組みを行った。（喀痰吸引等特定行為の安全委員会）
- ・施設内外の行方不明防止対策の検討を行った。

### ②レスキュー委員会

- ・定期的に訓練を計画、実施し、振り返り評価を行った。（消防、救急救命、地震等）
- ・各種マニュアルの見直しを行い、職員へ周知した。
- ・職員個々の防災意識を強化できるよう働きかけた。
- ・非常時に使用する物品管理を継続して行った。
- ・BCP（事業継続計画）に関する様々な知識を深めた。

### ③メディカル委員会【感染対策、褥瘡予防対策、身体拘束検討委員会】

- ・各種感染症マニュアルの見直しを行い、周知した。
- ・感染症に関する物品の管理を行った。
- ・感染症流行時期に合わせた勉強会開催、シミュレーションを行い、マニュアルを周知した。

- ・褥瘡の対応、予防のために使用する介護用品の管理を行った。
- ・褥瘡対策検討会を実施し、早期治癒、再発防止に努めた。
- ・感染症発生時の予防における身体拘束手順を周知した。
- ・委員会内で身体拘束の件数・内容を共有した。
- ・身体拘束廃止に向けて取り組み、感染症発生時を除いては身体拘束ゼロを維持した。

④認知症ケア委員会【虐待防止委員会】

- ・認知症についての理解を深め、認知症ケアに関する技能向上に努めた。
- ・高齢者、障害者理解を深め、虐待防止の啓発を行った。
- ・虐待の手前にあたる「不適切ケア」改善に向けての取り組みを行った。

⑤看取りケア委員会

- ・終末期を迎える利用者・家族に対し、より良いケアの提供と精神的な関わりが持てるよう努めた。
- ・家族の支援方法について検討した。
- ・死生観教育を通して看取りケアの質の向上を図った。
- ・職員の精神的安定が図れる体制づくりを行った。

⑥介護技術向上委員会

- ・個別援助技術の向上につながる取り組みを行った。
- ・福祉用具の用途を知り、移乗や安楽な体位変換について周知した。
- ・ポジショニング、シーティング技術の向上を図った。
- ・介護職員の腰痛予防にも配慮した技術を周知した。
- ・歯科と連携し口腔ケア技術の向上に努めた。
- ・排泄介助の見直しを行った。

⑦改善委員会

- ・法人理念を周知した。
- ・5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を行い、生活環境改善に努めた。
- ・接遇マナーの啓発活動を行った。
- ・日頃の言葉遣いを振り返り、コミュニケーション技術の向上に努めた。

4. 会議開催等

会議等	開催年月日	概要
監事監査	2023年5月19日	2022年度年事業報告及び決算について
理事会 (4回開催) ※書面による決議	2023年5月31日	2022年度年事業報告及び決算について 介護職員初任者研修事業の立ち上げについて 評議員の人選について 2023年度定時評議員会の開催について
	2023年6月21日※	理事長の選定について 常務理事の選定について
	2023年12月20日	2023年度第1次補正予算案について
	2024年3月27日	2023年度第2次補正予算案について 2024年度事業計画案について 2024年度資金収支予算案について
評議員会 (1回開催) ※書面による決議	2023年6月14日※	2022年度年決算について 定款の変更について 理事の選任について

		監事の選任について
評議員選任・解任委員会	2023年6月2日	評議員の選任について
その他定例会議	月1回	経営会議
		法人本部会議
		施設会議
		全体会議
		各部署会議
		衛生委員会
		その他

監査	なし
----	----

以上